

指導活用技術

分類名〔病害虫〕

指16	オンシツコナジラミに対する殺虫剤6種の卵期処理による防除効果
-----	---------------------------------------

宮城県農業・園芸総合研究所

要約

県内4地点から採取したオンシツコナジラミ個体群に対して殺虫剤6種の卵期処理による防除効果を検討したところ、クロチアニジン水溶剤、スピネトラム水和剤、ピリフルキナゾン水和剤に比較的高い効果が認められた。

〔 普及対象：イチゴ，トマト等施設園芸生産者
普及想定地域：県内全域 〕

1 取り上げた理由

コナジラミ類は園芸作物の難防除害虫として知られている。近年、コナジラミ類の薬剤感受性の低下が全国的に問題となっており、これまで有効であった薬剤でも殺虫効果が低下している事例がみられる。そこで、県内の野菜生産ほ場から採取したオンシツコナジラミに対する薬剤感受性検定を実施したところ、その防除効果が明らかになったので、指導活用技術とする。

2 指導活用技術

- (1) 採取地点によって防除効果には違いがあり、すべての採取地点の個体群に高い効果を示す薬剤はみられない（表1）。
- (2) クロチアニジン水溶剤、スピネトラム水和剤、ピリフルキナゾン水和剤はいずれの個体群に対しても中程度以上の防除効果が認められる（表1）。

表1 オンシツコナジラミの補正死虫率

IRAC コード	商品名	有効成分	成分量 (%)	希釈倍 率(倍)	補正死虫率 (%)			
					A	B	C	D
4A	ダントツ水溶剤	クロチアニジン	16.0	2,000	92.0	88.3	91.0	100
5	ディアナSC	スピネトラム	11.7	2,500	100	75.5	100	100
9B	コルト顆粒水和剤	ピリフルキナゾン	20.0	4,000	85.2	89.7	100	93.2
23	モベントフロアブル	スピロテトラマト	22.4	1,000	68.6	66.2	50.0	37.8
29	ウララDF	フロニカミド	10.0	2,000	21.8	14.1	53.7	18.8
-	サンヨール	DBEDC	20.0	500	49.1	22.6	0	42.3

3 利活用の留意点

- (1) 供試したオンシツコナジラミは県内4地点（A:山元町，B,C:亘理町，D:名取市）のイチゴ又はトマトから採取した個体群である。
- (2) 本試験では卵期の生育ステージに対して薬剤処理を行い、8日後の生死で防除効果を判定した。
- (3) 補正死虫率が90%以上を「高い」、70%以上を「中程度」、70%未満を「低い」とした。
- (4) スピロテトラマト水和剤の作用機作は「脂質合成阻害」であり、効果発現が遅効的である。
- (5) DBEDC乳剤は物理的に害虫に作用するため抵抗性の発達は起こりにくく、適用病害虫も広いことから、防除ローテーションに組み入れ易いが、オンシツコナジラミの卵に対しては防除効果が低い。
- (6) 効果に関わらず、さらなる感受性の低下を避けるため、同一系統の薬剤の連用は控える。

（問い合わせ先：宮城県農業・園芸総合研究所 園芸環境部 電話 022-383-8246）

4 背景となった主要な試験研究の概要

(1) 試験研究課題名及び研究期間

農作物有害動植物発生予察事業（令和元年度）

(2) 参考データ

なし

(3) 発表論文等

イ 関連する普及に移す技術

微生物殺虫剤プリファード水和剤による野菜類のオンシツコナジラミの防除（第79号参考資料）

微小害虫類およびうどんこ病に対する気門封鎖型薬剤の防除効果（第82号参考資料）

ロ その他

北日本病害虫研究会にて発表予定。

(4) 共同研究機関

なし